

スマートデバイス対応の授業収録・配信ソリューションを提供開始

当社の連結子会社であるヴィ・インターネットオペレーションズ(VIO)は、インフォテリア株式会社との協業により、スマートフォンやタブレットPCなどスマートデバイスに対応した授業収録・配信ソリューションの提供を9月3日より開始します。

本ソリューションは、VIOが開発した「ArgosView 授業配信システム」と、インフォテリアが提供するスマートデバイス向け情報配信・共有サービス「Handbook(ハンドブック)」を連携させ、講義映像の収録から配信までを自動的に行うものです。スマートデバイスの高い可搬性を生かし、時と場所を選ばず講義コンテンツを視聴できるようにします。



講義コンテンツ画面のイメージ

ストレージ統合セミナーを開催

当社は7月18日、東京にて、セミナー「運用の変革は「ストレージ統合」からはじまる」を開催しました。BCPの見直し機運が高まる中、IT面の災害対策としても、データ保全のためITインフラを適切に運用することが企業の大きな課題となっています。

本セミナーでは運用標準化の要となる「ストレージ統合」をテーマに、当社で実際に統合を担当したIDCサービス事業部の坂口 彰がその勘所を説明。また同事業部の辻本 悠佳が、10年越しの取り組み事例を失敗例・成功例織り交ぜながら紹介しました。

ご好評につき、同内容のセミナーを9月にも開催します。詳しくはイベント・セミナー予定をご覧ください。

イベント・セミナー予定

東京地区

運用の変革は「ストレージ統合」からはじまる

日時 9月12日(水) 14:30~17:15

場所 パナソニック インフォメーションシステムズ 東京オフィス セミナールーム(港区虎ノ門)

VDIでデスクトップを改革 デスクトップ効率化&コスト削減セミナー

日時 9月26日(水) 14:00~17:00

場所 アキバプラザ(千代田区秋葉原)

明暗を分ける! 保険代理店マネージメントセミナー

日時 9月27日(木) 15:00~17:35

場所 パナソニック インフォメーションシステムズ 東京オフィス セミナールーム(港区虎ノ門)

大阪地区

製造業の基幹システムはこれだ!!

日時 9月7日(金) 14:30~17:10

場所 パナソニック インフォメーションシステムズ 梅田オフィス セミナールーム(北区茶屋町)

詳しくは <http://is-c.panasonic.co.jp/event/> をご覧ください!

あいえず☆うちのBOSS

その3

ハードワークをさばってくれる坂本くん、今後も現場目線で! 後輩育成にも期待しています。

今号のボス

ESサポート本部 ESソリューション事業部 グループマネージャー 多田羅智史

今回のボスはESソリューション事業部のグループマネージャー・多田羅智史。紹介してくれたのは入社11年目の坂本幸司です。「当事業部はパナソニック エコソリューションズ社のビジネスをIT面から支えています。商品設計から生産・メンテナンスまで、バリューチェーンをシステムでつなぐ、いわば神経や血管のような役割。多田羅さんは受発注・物流・アフターケアのシステムをとりまとめておられます」。そう語る彼は修理サービスのシステムを担当。エンドユーザーさまからの修理依頼はなんと1日5千件近くに上るぞ!



部署ミーティングの様子

「これらの基幹システムは1分でも止めてはいけません。なかでも受発注システムは生産発注や納期管理などあらゆるしくみと連携する、バリューチェーンの要とも言える部分。大きな責任が伴いますから、多田羅さんがこれを担っているという事実だけでも尊敬しますね」。普段の多田羅GMはどんな雰囲気なのでしょう? 「話好きな、若作りのおっちゃん(笑)。というのは冗談ですが、冷静でどんな時もどっしりとした対応。さすがだと思います」。最後に「部署全員が多田羅さんを慕っています。そのままを貫いてください!」とメッセージをいただきました!



ESサポート本部 ESソリューション事業部 坂本幸司

Move to Delight

IS クローズアップ

2012 08 Vol.26

パナソニック インフォメーションシステムズ



▲「大根踊り」として知られている東京農業大学応援歌「青山ほどり」

Close Up Now

データはシステムの垣根を越える! 「つなぐ」ソリューションによる 情報資産徹底活用のススメ



TOPICS

スマートデバイス対応の授業収録・配信ソリューションを提供開始
ストレージ統合セミナーを開催



あいえず☆うちのBOSS

ESサポート本部 ESソリューション事業部 グループマネージャー 多田羅智史



社長・前川の ちよっと一言!

システムの 新陳代謝とは。

オリンピックでの日本のメダル獲得数は金銀銅あわせて38個。期待通り、番狂わせ...今回も多くドラマがありました。今後、4年後に向けて選手の育成や競技スタイルなどの改革に乗り出す競技もあるのでしょうか。とはいえ、一度にすべてを白紙にすることはできません。抜本的な改革を行うにしても、日本チームの理念、持ち味を確認したうえで、うまく新陳代謝を進める必要があります。

ITの仕組みも似たようなところがあります。企業にはそれぞれのこだわりや特性があるからです。

大規模投資による全面刷新も珍しくありませんが、新しい考え方を少し取り入れることで、これまでにない大きな効果を生むこともできるのです。これまでの仕組みの良さを活かしながら新陳代謝を進めるための「つなぐ」役割は、当社の得意分野のひとつでもあります。さらに強くなったシステムがお客さまの飛躍につながるよう、お手伝いを続けてまいります。



代表取締役社長 前川 一博
Kazuhiro Maegawa

編集後記

「つなぐ」で思い浮かんだのが道路や鉄道。通勤・通学・買い物と、ライフラインとして不可欠なものですよね。数十年間の変遷を眺めると、人の流れに合わせて徐々に姿を変えゆくさまはまるで生き物のようにも思えます。当社の「つなぐ」ソリューションも、戦略に応じて柔軟な連携ができる企業運営の支え役。お客さまの「これから」を常に支えるお手伝いをしてまいります。

発行元
パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社
法務部 広報・IRグループ
〒530-0013 大阪市北区茶屋町19-19 アプローズタワー16F
TEL 06-6377-0100 FAX 06-6377-0833 <http://is-c.panasonic.co.jp/>
※本紙掲載記事の無断転載・複製を禁じます。
※本紙に記載された社名および商品名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

データはシステムの垣根を越える！ 「つなぐ」ソリューションによる 情報資産徹底活用のおすすめ

あなたの周りに“ムダな手作業”、ありませんか？

絶えず変化する経営環境に即応するため、システムは部門ごとに構築されがち。

結果として、システム間の連携は必然的に複雑化してしまうものです。これを柔軟に解決し、作業の省力化を実現するのが「つなぐ」ソリューション。既存を活かしながら新しい仕組みを取り入れやすく、システム全体の活性化にも結びつきます。今号はパナソニックISの得意とする「つなぎ」を特集します！

「つなぐ」必要性

例えば、FAXで送られてきた伝票を販売管理システムに手入力する。検収データと請求データをひとつずつ突き合わせて確認する。自社内の販売管理システムからクラウド上の会計システムへデータを登録する…。ビジネスで使われるデータ形式はExcel、CSV、PDFなど多岐にわたり、システムを横断する業務ではどうしても入力作業に手間が掛かります。全社システムを刷新・統合するという選択肢もありますが、「つなぐ」ソリューションは既存のシステムを活かしながらビジネスプロセスの統合

を図れる点がメリット。業務のスピードアップはもちろん、各システムのデータを自由に取り出せるため、経営判断を迅速に行うことができます。パナソニックISの豊富なノウハウであらゆるビジネス環境に改革を！パナソニックISがご提供する「つなぐ」ソリューション。そのひとつが、インフォテリア株式会社のデータ連携ミドルウェア「ASTERIA」です。パナソニックISでは認証システムの統合、クラウドサービスの活用、顧客情報の一元管理などさまざまなシーンにおいて、200社を超えるお客さまにご導入いただいています。その豊富な経験から培ったノウハウこそが、「何物

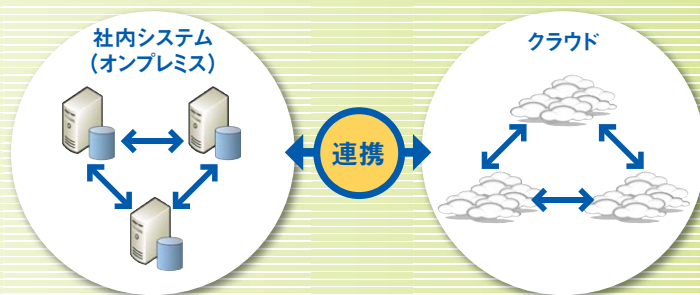
にも代えがたい」とご評価いただいているポイント。お客さまのニーズに合わせ、導入支援サービスや連携構築支援サービスも実施しています。



▲当社ユーザーとして「ASTERIA」を利用

【クラウド導入を成功させるには —オンプレミスとの連携がカギ—】

ITRの調査※によると、ITアウトソーシングの推進を計画する国内企業の9割がクラウドを重視しているとのこと。クラウドは今や、次世代IT基盤の選択肢として完全に定着したと言っても良いでしょう。ただし一方で、基幹系システムについては、まだオンプレミス（社内運用）で運用するケースも多く、その比率は6割から7割にのびます。クラウドとオンプレミスにデータが並存する環境化においては、その効果的な連携方法を考えることがクラウド有効活用のカギ。パナソニックISでは、「ASTERIA」を使ってデータ連携する際、クラウドとの連携も可能にする「ASTERIA Salesforceアダプタ」「ASTERIA GoogleAppsアダプタ」を独自に開発しました。モバイル端末との連携など、クラウドサービスをさらに使いこなすための機能強化もコンスタントに行っています。



※出典：「クラウド/ICTアウトソーシング動向調査2012」ITR

導入事例

レポート

東京農業大学 様

東京農業大学（以下、東農大）は、農学を専門に扱う国内唯一の大学。同学では、2010年秋に実施したシステム刷新に際し、統合認証システムにデータ連携ミドルウェア「ASTERIA」を採用。システム構築にはパナソニックISが選ばれました。

Before

大学は学生や教職員など“人”に付随する情報システムでいっぱい。システム間でデータを共有することで、業務効率を向上させたい。

東農大は農学を専門に扱う日本で唯一の大学ながら、学生数13,000名、教職員も含めるとIDは15,000にも及ぶ大規模な大学です。その東農大の「統合認証システム」は、単なるID・パスワードにとどまらず、在籍者データに付随する情報をシステム連携によって共有するシステム。学生／教職員ポータル、Webのシラバス、図書館システムなど、データが共有されているシステムは多岐に渡ります。パソコンや電子メール、学生一人ひとりに割り当てられたオンラインスト

レージへのログインにも使われており、統合認証システムは今や、東農大の中核を担う仕組みなのです。2009年の終わり、翌年に予定していたハードウェアのリプレースにあわせ、統合認証システムも全面刷新することに決定。このとき候補に挙がったのがデータ連携ミドルウェアの「ASTERIA」でした。コンピューターセンター事務室長補佐の大内貴史氏が「ASTERIA構築に豊富な実績を持つSler」という観点からシステムインテグレータの選定を進めた

結果「その事例が質・量ともに圧倒的だった」（大内氏）、パナソニックISが選ばれたのです。



東京農業大学
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
<http://www.nodai.ac.jp/>

After

ユーザーフレンドリーで使い勝手のよいシステムを導入することができた！

今回、東農大は統合認証システムのハード・ソフトを全面的に入れ換える一方、設計理念は従来のシステムを踏襲して構築を行いました。「このことにより、ASTERIAにカスタマイズで追加しなければならない機能が出てきました。パナソニックISにこちらの要望を伝えたところ、アイデアを絞ってその機能を実現してくれました」と大内氏は、パナソニックISの技術を高く評価します。2010年10月、ASTERIAによる新・統合認証システムが稼動。パフォーマンスは導入前に比べ約1.8～3倍も向上したそうです。さらに、ASTERIAはGUIによる視覚的なプログラミングを実現しているため、システムに特別詳しくない担当者でも開発が容易で、開発工数の削減やメンテナンス効率の向上に

つながりました。仕様の可読性も高く、管理・運用面でも非常に高い効果が出ているといえます。今後もデータ連携の対象をさらに広げていく予定という東農大。「今回のASTERIA導入は成功だ

と思っています。特にパナソニックISに関しては100点満点の満足度でした。職員に対する教育もしっかりしていただきましたし、本当にお世話になったなと思います」（大内氏）

